



MICRO
HOME MADE 家族
ヒップホップグループ
「HOME MADE 家族」
のMC、リードボーカル。
16年末にグループの
無期限活動休止後、ソ
ロ活動を開始。刈谷市出
身で、公演や楽曲提供な
ど精力的に活動している

月 巻頭特集

#カリソンプロジェクト

刈谷のうたを みんなで作ろうみんなで歌おう

市制施行70周年・青年会議所設立60周年の合同特別企画で発足した「#カリソンプロジェクト」。

刈谷市出身のアーティスト、「HOME MADE 家族」MICROさんが
楽曲をプロデュースし、「刈谷のうた」が誕生しました。



作詞:MICRO 作曲:MICRO、藤本和則

「幸せは必ずやってくる」
風に揺られながら 希望を乗せて
それぞれの答えは この道の先に
信じて進むよ あなたがくれた花言葉のように

QRコードを
読み込んで、完成した
ミュージックビデオを
観よう!



アイリス アイリス 育てていこう
アイリス アイリス 僕らの歌を
アイ Wish アイ Wish 百年先も
薫る風に乘せ ララララ

アイリス アイリス 繋いでいこう
アイリス アイリス 僕らの歌を
アイ Wish アイ Wish 百年先も
薫る風に乘せ ララララ ラ



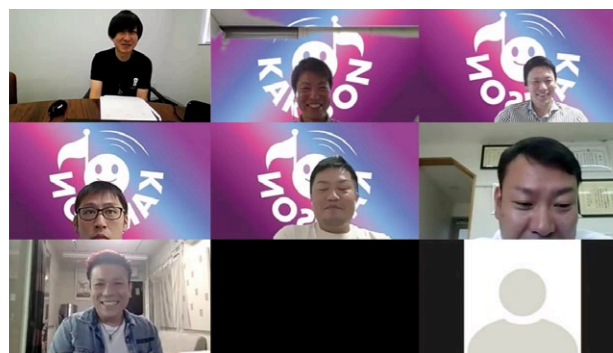
#カリソンプロジェクト

離れていても繋がりが合える 刈谷のうたを作ろう

10月下旬、生まれたばかりの刈谷のうた『アイリス』希望の花言葉のレコーディングが刈谷市総合文化センターアイリスで行われました。作詞作曲・監修は刈谷市出身のアーティスト、「HOME MADE 家族」MICROさんです。パフォーマーやプロデューサーとして多忙な日々を送りながらも、気持ちはいつも生まれ育った場所にあります。刈谷市市制施行70周年と刈谷青年会議所設立60周年の節目を迎える2020年。数年前からさまざまなイベントや記念催事が計画されていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、実現不可能となりました。記念すべきこの年に、市民が繋がりが合うことができないかと考案

されたのが、「#カリソンプロジェクト」。集わなくても進行でき、離れていても繋がりが合える「歌」を市民の手で作りに参加するプロジェクトです。「子どもたちに歌ってもらいたいことを目的に、大人になっても歌える曲を作ろう」と思いました。刈谷市で生まれ育った人間として、故郷で歌い継がれる曲をプロデュースできるのは幸せです」とMICROさん。家族や友達、故郷への愛と感謝を歌い続けてきたMICROさんらしい楽曲が完成しました。優しくもメッセージ性の高い歌詞と耳に残るメロディライン。子どもから高齢者まで、ふと口ずさめる1曲です。

市民参加型のプロジェクト 聴いて歌って繋がろう



コロナ禍の制限がある中でリモートでの会議を重ね、プロジェクトを進行了しました

て始動。青年会議所の実行委員会が主導して市内の小学6年生までを対象にキッズボーカルを募集しました。市にゆかりのある人なら誰でも応募できる写真や動画を募集、ミュージックビデオを制作。投稿されたすべての動画は実行委員会とともにMICROさんも目を通して、「やる気満々の子どもたちが一生懸命に歌ってくれていて、本当にかわかった」と目を細めるMICROさん。オーディションで選ばれた11人がメインボーカルを務めています。楽曲のテーマである「幸せは必ずやってくる」は、市の花カキツバタの花言葉です。歌詞に登場する「アイリス」も同様のあやめ科で、刈谷市総合文化センターの愛称にもなっています。「刈谷市ゆかりの花や場所を、曲をきっかけに再確認しても

新型コロナウイルス感染症の影響で制限がある中だからこそ感じられる絆があります。ぜひ、「アイリス～希望の花言葉～」を聴いて歌って、プロジェクトに参加してください



刈谷青年会議所
理事長
カリソンプロジェ
実行委員
岡本 知樹さん

「このプロジェクトを点で終わらせず、市民を巻き込んで脈々と続いていくものにしていきたい。いずれは音楽の教科書に載るような、愛される楽曲になればいいですね」と10年後も変わらず歌い続けられるよう、まさに根付いた存在に育てていきたいと実行委員会メンバーは語ります。刈谷わんさか祭りの盆踊りや卒園・卒業式、市民コーラスのテーマ曲に、何気ない日常での鼻歌に、生活に浸透し親しまれる曲になるよう普及していきます。完成したミュージックビデオはYouTubeで配信したりイベントで上映するなど、まちの活性化で活用される予定です。

住む人に優しいまち 大好きな故郷を胸に

音楽活動で地元から離れることが多いMICROさん。外から見た刈谷市は「誰にでも優しいまち」だと

いいです。「無料で乗れるバスや充実した設備がある総合運動公園、レコーディングもできる文化センターがあるまちなんで、全国を回っていても稀だと思えます。すべての世代に優しくして便利。この充実したまちをもっと使って、もっと楽しもう！」少年のような笑顔からは、「このまちが好き」の思いが溢れています。音楽はその時の風景やそこに吹く風、匂いまでも思い起こさせるもの。この歌に慣れ親しんだ子どもたちが大人になって思い出すのは、家族の絆と描いた夢、自分を育んだ優しいまちの風景であるように。それぞれが紡いだ思い出が、場所も時間も超えてこの曲で繋がりが合えるようにと作られた歌を、聴いて歌って、プロジェクトに参加してみてください。



①レコーディング前日に合同練習を実施。MICROさんが子どもたちの緊張をほぐし、終始和やかな雰囲気。②ランドマークで動画を撮影し、刈谷市ならではのミュージックビデオに仕上がりました

